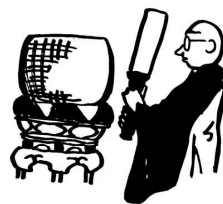




“源溪山だより”

<https://chouanji.p-kit.com/> 令和7年11月④
住職 恩田仁志 gen-chouanji@aka2.gmobbb.jp



◆洞松寺へお参りました

……洞松寺様では法要もして頂き、感激でございます。異国からの方が修行され、厳しい中にも開かれた親しみを覚え、今も心温まる思いでございます。……



舟木山洞松寺で、長安寺佛教婦人会々員各家の先亡供養等を厳修して頂きました。

法要には、洞松寺西堂であり、あわせて永平寺顧問、永平寺東京別院役寮でもある鈴木包一老師にも御随喜いただきました。(役についてわかりにくいと思いますが、えらーい方です。)たいへん有りがたいことです。



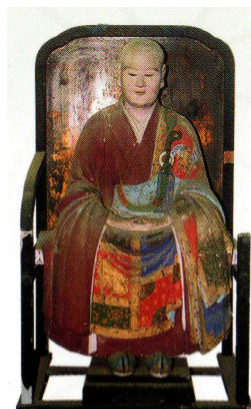
法要全体を取り仕切り、また山内を案内してくださったのは知客(しか)和尚という役の原田吉浩老師(世羅町・鳳林寺住職)。そしてたくさんの雲水(修行僧)のうち7割ほどになる外国籍の皆様などが一緒に読経や焼香をしてくださいました。

法要を終え、山内を拝観の後、ご接待を受けました。雲水さん達一人一人から自己紹介して頂きました。母国語が英語の方はもちろん、フランス語、ポル

トガル語など様々な国から「禅」を学びにこの僧堂へ来ているとのこと。もちろん島根県を始め、国内からの雲水もおられました。

洞松寺は、飛鳥時代の天智天皇のとき、法相宗舟木山洞松司院として創建されたと伝えられています。仏教の興隆に力を注がれた聖徳太子の時代から60年ほどしか経っていない頃です。(ちなみに長安寺も法相宗寺院から始まっています。)

そして室町時代に曹洞宗寺院として再興されました。



左の画像は洞松寺の開山堂に祀られている五世住職の崇芝性岱禅師像です。崇芝性岱禅師が後に、長安寺の本寺である文殊寺(埼玉県熊谷市)を開かれ、二世季雲永岳禅師が長安寺の御開山様となります。

車や列車がない時代ですが、人や文化は日本国土を東へ西へ動いていたことが理解できますね。



洞松寺本堂の前で記念撮影